

愛媛の特産品を贈りたいとの思いから今治タオルを贈る事に決定。コンテックスさんのご協力もあって、元気の出る「ラチオ体操」のてぬぐいタオルにメッセージをプリントし、メッセージカードも添える企画にしました。多くのタオルを贈りたいと考え松山市校長会の協賛も得て、6校の中学校で販売し2,000枚のタオルが完売できました。



参加者の感想



福積竜馬…6年間、中学校から参加しました。その中で、本当にたくさんのことを学びました。

最初の1回目の火起こしから川遊びまで、本当に幅広く活動することができ、何より人とのつながりがすごく多くて、本当にたくさんの何かをいただきました。

中学1年、もはやノリとイキオイですべてどうにかなると考え、大人の前でも子どものようにしゃぎまくっていたと思います。そして今、働くところも見つかり、本当に自分が成長したなあとかなり実感します。これからも機会があれば子チャレをのぞきに行きたいです。



山本真理子…今回のテーマを初めて聞いたときは、まだ自分が向き合っていない問題だったので、難しそうだなあと感じていました。「震災」について、自分が多くの情報を持っているとは思えなかったし、自分にできることなんてほとんどないかもしれないと思っていました。

しかし、実際に後半から少しずつ活動に参加する中で、タオルにのせるメッセージを真剣に考えたり、タオルを売る、えたりタオルを売るためにお客さんに一生懸命説明しようとしている他のメンバーの様子を見て愛媛にいる私たちにできることは本当に少ないかもしれないけど、震災について知ったり、考えたり、みなチャレメンバーと話し合ったりすることで、震災地の人の気持ちによりそうことはできると思えるようになりました。

自分には関係のないこと、どうしようもないことと捉えるのではなく、何か自分にもできることがあるかもしれないと思行動することの大切さをみなチャレのメンバーに教えてもらったと思っています。それと同時に、そうして考えたこと、やろうと決めたことを、自分の生活と両立して継続していくことの難しさを感じました。

わたしは、みなチャレに参加している時間は、震災と向き合えたと思いますが、それ以外では震災に意識を向けることは少なかったと思います。震災から1年が経ちましたが、復興はまだほとんど進んでいないという話をよく耳にします。わたしはみなチャレの活動を終えて、震災のこと、また、みなチャレでした活動を忘れないことを今後の目標にしたいと思います。そして、今後は教師として、震災について、生徒たちと一緒に考え、震災をみんなの問題として捉えられるようにしていきたいとおもいます。

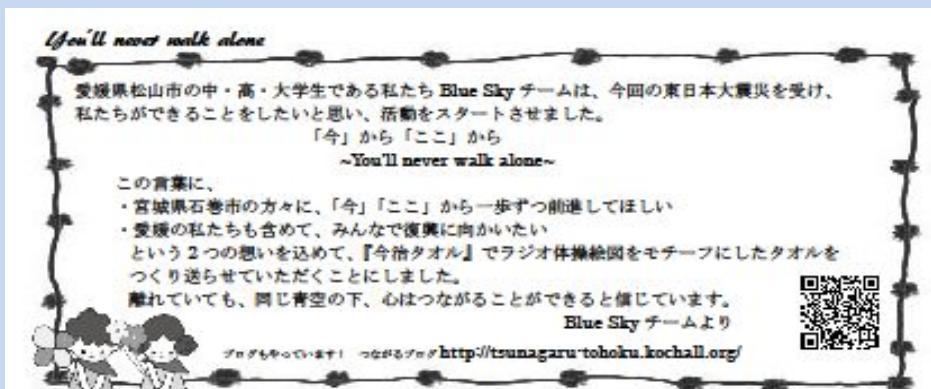
本当にありがとうございました。

今年度の活動を終えて…星加 侑姫



今年度は“東日本大震災を受けて私たちができること”というテーマのもと、今までとは違った活動となりました。愛媛に住む中・高校生、そして大学生が“ここ”からできること。今まで募金しかしたことがなかった私にとっても何かできるチャンスであると感じました。しかし、実際に活動をスタートさせると何をすればよいのかという疑問ばかりで、戸惑いの連続。みんなで出し合った案も、相手のニーズに合っているのかなどと考えては、いくつもの案が流れ、そして今回の「今治タオルを贈る」活動に決定しました。愛媛らしく、かつ相手に喜んでもらえるものって何だろう。自分たちが今できることって何だろう。そう考えたり話し合ったりした時間は各々が東日本大震災と向き合い、現地の人の立場に立って真剣に考えることができた貴重な時間であったと思います。初めはあまり意見を出し合うことができなかった話し合いも回数を重ねる毎に自分の意見を出し合う様子が見られ、それぞれの意識の変化を感じることができました。そして私自身も今まで震災について考える機会があったものの客観的にしか考えられていなかったのだと反省するとともに、もっと自分の行えることを行っていきたいと思うようになりました。最終発表会で「自分のことばかり考えていたけれど、他人のこと考えないといけないと思った。」とさるのが言っていたように、各々に今までなかった思いや考えが生まれたのではと思います。勉強や部活、他にもやらなければいけないことは皆あったと思いますが、共に考え、助け合い、意見を出し合いながらこのメンバーで活動できたことを嬉しく思います。

また、今回の活動で嬉しかったことは地域の方々や多くの中学校にも協力していただけたということです。私たちがこの活動を行うことで私たち自身だけでなく松山に住む多くの方々にもこの震災を忘れずにいてもらえる機会になりました。贈ったタオルには『“いま”から“ここ”から～you'll never walk alone～』とメッセージを入れ、そして私たちのチーム名はBlue Skyです。“いま”私たちが住む“ここ”愛媛から、“同じ青い空”でつながっている石巻市へできることをしたいという思いが、愛媛に住む地域の方々やさまざまな方々の協力の下で伝えることができたことが大変うれしく思います。そして同時に、一人でできる支援もあれば皆がいるからこそできる支援もあるのだと再認識することができ、多くの方々とうまくやっていける活動できたことは大変貴重な経験であったと思います。今治タオルを贈ろうと提案してくれた也美、自分の意見をしっかり伝えられる将太、イラストを任せられたさるの、いつもそっと周りを気遣う大松、何事も積極的になっしー、文化祭では売り子として大活躍した中越、いつも笑顔で場を和ませてくれたおぐ、積極的に販売活動に参加してくれたのぞみ、途中参加にも関わらず多くの助言をくれたまりっぺ。そしてアドバイスやさまざまな手配を行っていただいた大人の方々や協力して下さった今治タオル会社コンテックス様、多くの小・中学校の関係者の方々。さまざまな方々の協力があったからこそ、今回の活動を行うことができました。東日本大震災を受け、多くの方がさまざまな形態で支援に関わっています。今回の活動もその一つであり、個人ではできない、多くの人の支えがあったからこそできた活動でした。これでこの活動は終わってしましますが、これからは自分ができることを行っていきたいと思います。震災が発生して1年が経ちました。南海地震の発生も近いと言われている中、今回の震災を忘れずに自分ができるとを行い、今後の起こりうる災害についてもよく考えて行動するようにしたいです。活動に関わってくださった多くの方々、本当にありがとうございました。



“いま”から“ここ”から～you'll never walk alone～
いま”私たちが住む“ここ”愛媛から、“同じ青い空”でつながっている石巻市へ